



2014. 12. 01

地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- ネパールの出稼ぎ事情 1
- 村人の声を聞く スマホとシャーマニズムが同居する村にて 2~3
- プロジェクトの中間評価を行いました 4
- 結婚という名の人身売買 5
- カンボジア織物シリーズ「建国神話から」 5
- 「ハートのチャーム」こんな使い方 5
- 再び被災地へ 私たちの気仙沼訪問ツアー 6
- ツアー参加者の感想 7
- ネパール奨学生の写真が優秀賞に！ 7
- 活動日誌 7
- INFORMATION 8

ネパールの出稼ぎ事情



2014年6月、「カタールW杯が出稼ぎ労働者を殺す」という衝撃的なニュースが目に飛び込んできた。サッカーの2022年ワールドカップ（W杯）カタール大会に向けた施設などの建設事業で、昨年185人のネパール人が死亡したというのだ。主な死因は、炎天下50度にもなる過酷な労働環境での心臓発作だ。そこには、非衛生的な宿舎に閉じ込められ、賃金未払いでもパスポートを取り上げられ逃げられずに働くかされる虐待や搾取の実態が報じられていた。

私の義弟もこの6月までカタールに出稼ぎに行っていた。現在カタールには約27万人のネパール人が働いている。義弟は、弁護士を目指して法学部を卒業し司法試験にも合格した秀才だ。しかし、人脈が何よりも力をもつネパール社会で、法曹界に知り合いがないために就職ができず、ようやく見つけた人材派遣会社で事務職を務めていた。その内に自分も出稼ぎに行った方が稼げると思って、ドバイでピザの宅配をした。2年後、バイク事故にあって帰国し、ネパールで小さな文房具屋を開いたが、半年後には道路拡張工事によって立ち退きを強いられ、結局、またカタールに飛んで、スーパーのレジ打ちをしていたのだ。

2010年の統計によると、年間35万ものネパール人が新規出稼ぎ労働者として国外に渡航している。現在、外国に滞在しているネパール人労働者の数は270万人を超えており、これはネパール人口の約10分の1にも匹敵する。男女合わせ就労人口の5人に1人は外国で働いていることになる。出稼ぎ先として多いのはアラブ諸国やマレーシアであり、少し余裕があると、オーストラリア、韓国、日本に行く。

出稼ぎは今に始まったことではなく、山村の過疎化は日本を含め世界中のどこでも進んでいるが、今日のネパール

では都市にも仕事がなく、山村からの出稼ぎも外国へ直結している。地球の木の支援地であるマンガルタール村でも、働き盛りの男性は出稼ぎでいることが多い、家族で移住して空家になっている家もある。日本人が村に行くと、若者たちは日本で働けないかと相談に来る。誰もが、家族のうちの誰かは海外で働いて少しでも多く稼ぎ、豊かな生活をしたいと望んでいる。そうした強大な流れの中で「幸せな村づくり」と一緒にていきましょう、と働きかけることの難しさを感じると共に、今、根本から考えないとネパールの暮らしが空洞化してしまうという危機感から、「幸せ分かち合いムーブメント」の意義をあらためて感じるのである。

日本には現在、約32,000人のネパール人が外国人登録をしており、2000年には3,649人であったことからその急増ぶりが分かる。各地にネパールレストランができる、技能ビザでの滞在は中国について多い。聞くところ、日本への斡旋料の相場は一人30~50万円という。中には悪徳業者もあり、研修や実習と称して賃金不払いを働かせるなどの人権侵害が日本でも起きている。同じ地球上で同時代に生きる者として、互いが幸せであるために何ができるのかを考えていきたい。

(理事 橋野 昌子)



ライトアップされたボダナート寺院



村人の声を聞く

スマホとシャーマニズムが同居する村にて

マンガルタール村での「幸せ分かち合いムーブメント」は、今年で8年目に入りました。村の人たちで委員会を作り「開発は計画から実施まで村の人たちの手で」を合言葉に話し合いを重ね、教育や収入創出のためのプログラム、ニュースレターの発行などを行ってきました。

しかしこの間、村の状況はどんどん変化してきました。町へ引っ越す人や海外へ出稼ぎする人が増え、若者の目は海外に向いています。新しい電子機器が入ってくる一方、古い慣習は今も残っています。村にとって本当に必要な活動は何か、もう一度みんなで考え具体的な計画を立てよう

と9月の6日間、マンガルタール村の人たちと参加型計画ミーティングを開きました。そこに参加した結果をご報告します。

今回進行役を務めたのは現地NGO・SAGUNの理事マハントさんでした。CMCネパール（精神衛生とカウンセリングセンター）のコーディネーターとしても活動しているマハンタさんは、男女間の差別や家庭内暴力などの問題やそこから発生する精神的な苦痛についても参加者から引き出し、これまで知らなかった村の状況も知ることができました。



参加型計画ミーティングとは？

■地域ミーティング

マンガルタール行政村の中の5つの主な地域で実施しました。住民組織や母親グループなど、様々な村人に集まつてもらいます。まずは集会の目的を説明し、地域のデータを提示した後、参加者に村のよいところを挙げてもらいます。自然資源、設備やグループ、人的資源など。次に村の改善点を挙げてもらいます。出てきた中から主要な課題を取り上げ、その原因と結果について話し合います。

■全体ミーティング

5つの地域で出てきた課題を分析し、最後に各地域から3～5人の代表者が参加して全体ミーティングを開きます。自己紹介、目的説明の後、各地域の代表が現状と課題を発表した後、解決方法としてどのような活動が必要かを全員で考えます。



牛乳を運ぶトラックの荷台で移動

人も暮らしも異なる5つの地域で ～地域ミーティング～

【ピンタリ】

ここは幹線道路から歩いて30分ほどの集落。標高約1,000mの平らな場所です。水力発電や灌漑があり、豊かな地域にタマン族が暮らしています。夕方5時頃新築中のグンバ（仏教のお寺）に入々が集まりました。村人は畠仕事で忙しく、20人中女性はただ一人。良いところとして挙がったものの中に、村人みんなで作ったグンバがありました。お金を集めただけでなく、みんなで参加したことが最も重要だとマハントさんはコメントしました。



ピンタリのお寺での集会

「自分たちは仲介者です。医者と同じように、正しい情報を得られないと間違った治療を施すことになります。今日は女性が参加していないので明日女性を集めてもう一度集まりましょう」というマハントさんの言葉により、翌朝8時に再度ミーティングが開かれました。母親グループのメンバーなどが集まり、生活に即した話でにぎわいました。

若者と仕事についての課題が挙がりました。若者はサッカーに夢中になり、家の仕事も手伝わないので、農業技術が身につかない。学校も10年生（高校1年生）までの子どもが多く、読み書きのみで教育も不十分なので仕事につながらない。仕事がなく時間があるので、お酒を飲む、けんかをする、家庭や村で暴力をふるう、トレーニングを受けても正しい効果が出ない、など問題は多いようです。

【ラジャバス】

この地域はヒマラヤ山脈が望める標高1,700mの山の上。主にマガール族が暮らしています。水源が枯れ、水不足。農業のほかに竹でかごを編んだり、水牛の乳を売ったりして現金を得ています。豚を飼っているのがタマン族との違いです。尾根にある中学校の図書館には地球の木も支援をしています。

ミーティングは夜9時前に学校の先生の家で行われました。集まったのは女性8人を含む14人。教師や保護者が中心でした。課題は、獣医がないこと。政府機関は往診してくれないので、自費で町から呼ぶのでお金がかかります。また、女性の問題を取り上げられました。学校で女子を差別する態度が男子にあり、それがストレスになり不眠やめまいにつながるということです。助け合いが薄れていることも挙げられました。

【マンガルタールバザール】

幹線道路沿いの地域です。交通の便がよいので、商店が並んでいます。集まったのは10人ほど。商売上手と言われているネワール族の人やカーストの高いバフンの人たちが主でした。地元の農業トレーニングはあまり効果がないことや、マンガルタールの高校のレベルが落ちていることが参加者から述べされました。学校の質を上げるには保護者と若者をエンパワーしたらよいという意見が出ました。

【ボホレ】

道路から2時間ほど山を登ったところにある集落です。夕方5時頃戸外で女性や中高生、子どもたちを含む36人が花と野菜で作ったマラ（花輪）を作つて待つてくれました。ちょうどマンガルタール高校の裏山に当たる場所で、タマン族やバフンの人たちが住んでいます。



歓迎の野菜のマラを
もらったマハンタさん

参加者のある女性は、村で行われるすべての集会に参加しているが、そうすると夫に叱られると発言。女性たちは仕事や教育の面で息子と娘の間に差別があることや、トレーニングが全て中心地で行われていて参加できないので、地元でもやってほしいとの意見が出ました。また熱心な中学生の女子2人からは、子どもクラブを作りたいので、教材などを提供してほしいとのリクエストがありました。これに対応できる人を紹介しました。

【タクレ】

ボホレとは別の尾根にある地域です。起伏の多い場所にあり、尾根のてっぺんに小学校があります。小学校の校庭に20人ほどの子ども、若者、大人が集まりました。男女別



タクレで女性たちの声をまとめる元奨学生カンチマヤさん

の3グループに分かれ話し合いが始まりました。主な課題として挙がったのは男女差別。その原因と結果を話し合いました。

参加者の中にてんかん持ちの少年がいました。そのため差別を受けており、悪魔が乗り移ったと祈祷師に何度も来てもらい多くの出費があったということです。上手にコントロールすることができ、薬もWHOの補助により、無料で手に入れることができることをマハンタさんは丁寧に教えていました。

大きなかご一杯の飼料を背に山を登つてくる女性の脇で、小さな子どもたちがスマホで音楽を聴いていたり、若者がスマホをいじっていたりするのを見ました。

全体ミーティングで出た課題

参加したのは各地区から約30人。この地域ではNGOや政府機関による集会がよく開かれるそうです。普通は参加すると200~300ルピー（200~300円位、ランチ2食分相当）の手当が出ます。手当が目当てで同じような人が毎回集まるので、集会やトレーニングの効果はありませんとのことです。SAGUNはそのような手当は一切出さないのですが、集会にはたくさん的人が集まるので驚かれると言いました。期待がかかっているのを感じました。

私は、住民が協力し合つて町づくりをし「環境モデル都市」として再生した現在の水俣の様子を例として話しました。昨年日本に研修に来ていたプレムさんからも水俣で学んできたことを話してもらいました。マンガルタール村で「ミナマタ」は開発のあり方の合言葉となることでしょう。



プレムさんの水俣の話を熱心に聞く参加者

さて、最後に挙げられた、村として取り組む課題は次のとおりです。

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1.家庭用の野菜栽培から市場に出せる農業へ | 2.学生たちの規律 |
| 3.保護者への教育（息子と娘の平等意識など） | 4.若者の雇用 |
| 5.飲料水の不足 | 6.農業の市場開拓 |
| 7.協同組合の勉強 | |

これから具体的な活動案をSAGUNと村の人々で詰めていく計画です。来年度の事業に反映されます。

（ネパールチーム 丸谷 土都子）



プロジェクトの中間評価を行いました

JVCラオスがサワナケートで実施している「森林保全と持続的農業による生活改善プロジェクト」は、2013年2月から第2フェーズとして新たな3年間が開始され、2014年8月には本事業の中間評価が実施されました。

【プロジェクト評価とは?】

NGOやODAによるプロジェクトの事業評価には、事前評価、中間評価、終了時評価、事後評価（事業終了後、数年経過した後に行う評価）などいくつかあるが、JVCの各現地事務所が実施している評価は、主に中間評価と終了時評価である。開発援助や事業評価に精通している外部研究機関やコンサルタントなどに委託して行う外部評価もあるが、今回行ったものは実施者である私やローカルスタッフが一緒に行う内部評価というものである。外部評価の利点は、評価に特化した専門家が公平な目で事業を評価できることがあるが、内部評価については実施者のプロジェクトへの理解が高まるという点で、ローカルスタッフの能力強化につながるという利点がある。

【例えば、米銀行の評価はどうやるの?】

中間評価ではまず、実績（3年間でやろうとしていた活動量のうち、どれくらい終わっているか等）および実施プロセスを確認し、プロジェクトの達成状況、効率性、妥当性などを項目ごとに評価するのが主な作業である。具体的な例として米銀行の活動の実績を確認する作業を挙げてみよう。例えばプロジェクト開始前に設置した3年間で達成すべき“指標”は下記のとおり。

1. 6つの米銀行が新たに設置される
2. 設置した6つの米銀行が適切に管理されている

上記の指標において、1の指標の達成度を確認する際は難しくない。これまで開設した米銀行の数は明らかだ。しかし、2の指標を確認する場合、どうしたら“適切に”管理されていると言えるのか、がポイントとなる。今回の評価では下記のような項目が入ったスコアシートを作成した。

- 米銀行委員は規定どおり7名で構成されている（1～5点）
- 借米、返却の記録がきちんと記帳されている（1～10点）
- 村人たちは米倉開きの日を事前にきちんと知らされている（1～5点）
- 借米された米はスケジュールどおりに返却されている（1～10点）

などである。質問項目は16項目あり、100点満点中70点を取れば“適切に”管理されていると評価する。このようなスコアシート、理解度確認シート（例えば、土地の権利についてどれくらい理解しているかを確認するもの）を各活動について行った。内部評価では、これらのシートも自分たちで作成するため、シート内容についての村人へのインタビューや調査の作業はもちろん、何よりシート作成に時間がかかった。シート作成の前段階では「なぜこのシートが必要なのか」「どうして点数制なのか」といったところからスタッフに理解してもらう必要があり、実績の確認のみでも何日もかかった。

【一番の収穫はスタッフの能力強化!】

中間評価レポートは現在まだ作成途中だが、全ての活動の実績を確認し、効率性、妥当性、インパクトなど、各評価項目についての話し合いを終えた。今回の評価の一番の収穫は、やはりスタッフの能力強化に貢献したことだ。「評価とは何か」「なぜ必要なのか」という点から始まった中間評価だが、自分たちで実績確認を行い、振り返りや課題を議論したことは、プロジェクトを運営していく上でスタッフにとって大きな学びとなった。中間評価を活かして、プロジェクト後半もより良いプロジェクトにしていきたい。



JVCラオス事務所のローカルスタッフと連日開いた中間評価会議



代表 林 真理子

結婚という名の人身売買

地球の木は、今年度からカンボジアでレイブやDVなどで被害を受けた女性の支援を行っている団体CWCCの応援を始めました。

CWCC (Cambodia Women's Crisis Center)のシェルターで以前、人身売買の被害者の女性にお会いしました。今回はそのお話を少し。

人身売買とは聞き慣れた言葉ではあるのですが、口減らしのために子どもを売る親は減ってきているといいます。出会った26歳の女性は親から売られたのではないそうです。

貧しい家族の8人兄弟の7番目の少女は、ブローカーに説得され中国の見ず知らずの男性との結婚を決意します。その際に受け取った少しのお金を両親に渡し、向かった中国の村で待っていたのは、結婚式もない「結婚生活という名の労働」。一人っ子政策世代の農家では人手が足りなく、彼女は結婚相手の家族全員の世話をさせられ休みなく働かされます。「このままでは死んでしまう」と離婚を申し出た彼女は、またこのブローカーの元へ戻されます。そしてまたほかの村の男性のもとへと行くことになります。ここで彼女はやっと、それが「国際結婚ブローカー」でなく「人身売買 ブローカー」だったことに気がつきます。やっとのことで中国のカンボジア大使館へ逃げ込んだ彼女は、親戚に頼み込み、皆のないお金をかき集め、帰国。そして保護されました。

「そんな浅はかな考えで結婚なんて自業自得じゃない？」と私は一瞬思ってしまいました。しかし「貧しい村で結婚するよりも、すこしでも両親に送金できたらいいなと思っていた」という彼女の思いは、私が同じ状況でも考えたかもしれないことのように感じました。言葉巧みなカンボジアの最近の人身売買は「自立したい」と強く願う人々を狙った詐欺のようなものようです。

CWCCでは人身売買撲滅のために国内外での広報活動を行っています。そこにいる女性たちが抱える多くの問題に立ち向かうCWCCとカンボジアの情報をまたお伝えしたいと思います。

（理事 古田 麻利子）



「ハートのチャーム」のこんな使い方！

大学生の時にネパールのスタディツアーに参加したSさんが結婚披露宴のお見送りのときに渡す「プチギフト」に地球の木オリジナルの「ハートのチャーム（キーホルダー）」を選んでくれました。彼女の話です。

「大学生の時から、ネパール、カンボジアと地球の木のプログラム地を訪問し、イベントなどでもボランティアをしました。大変な状況でも、明るく笑顔で頑張っている現地の人たちを見て、私も世界の人たちと共に働く仕事を選びました。人生で一番幸せな日、会場に来てくれた人たち、そして今この時も現地で頑張っているみんなとの幸せを分かち合えたら…と思い、このハートのチャームを渡すことを思いつきました。かわいいらしいハートの形やシルクならではの光沢も素敵ですが、何より一つひとつ作りで作られたこのチャームは、ハンディキャップを持つワーカーの人たちが作っています。少しでもその人たちのお役に立てたら幸いです。結婚してからも社会のことに関心を持ち続け、自分にできるボランティアを続けていきたいと思っています。幸せが幸せをつないでいく…そんな社会になると素敵だと思います」

（クラフトチーム 筒井 由紀子）

カンボジア織物シリーズ その2 建国神話から

■「ナーガの鱗の衣」

いまカンボジアで通訳として地球の木の手助けをしてくれているチャンディナーさんは、小学生のとき授業で次のような建国神話を学んだそうです。「インドの王子（タオノ王子）が船に乗ってカンボジアの海辺にたどりつき、海を治める水の神ナーガ・ラージャ（龍王）の娘、ネアック姫と恋に落ちる。王子は海底の龍王の国に行けないが、ネアック姫が龍の鱗でできた自分の衣を王子につかませることにより龍王の国に行くことができた。そこで龍王は王子を認め、龍王は海水を飲んで陸地を作り、その土地を王子とネアック姫に治めさせた。これがカンボジアの国の始まり」

チョン・クバン(袴のようにしてはく腰布)やサンポット(女性の巻きスカート)には菱形の格子文様やナーガ（龍）の具象的な柄が多く見られます。このようなナーガの鱗の意匠の布を着ることによって、カンボジアの人々はナーガの子孫であることを表現し、カンボジアの始祖であるナーガに守られることを願うかもしれません。

■カンボジアの結婚式

写真は4年前まで地球の木のカンボジアでの通訳をつとめてくれていたチャンタイさんの結婚式のときのもので、数ある儀式のうち、「ネアック姫とタオノ王子の儀式」です。新郎が手を持っているのが「ナーガの鱗の衣」で、建国神話をなぞっています。

カンボジアの結婚式はふつう3日続き、新婦のお色直しは10回とか。村中の人々が招待されたりするそうです。チャンタイさんの場合は、新郎の親戚が日本から来たりしたので1日で終わりましたが、朝から儀式が続き、夜は現代風にウエディングドレスでの披露宴でした。

（クメールシルクチーム 大藪 明恵）

再び被災地へ

私たちの気仙沼訪問ツアー (10月22~23日)



■仙台から気仙沼へ■

私たちの乗った小型バスはいよいよ仙台で一般道を走り始めた。この国道6号が津波を食い止めたという。はるか遠くに見える海岸線まで何もなく、塩抜きをしているという土地が小雨にかすんで広がっていた。今回の参加者は、被災地は初めてという人もいれば、土木関係の専門家もいる多彩な14名だ。

バスは松島、石巻へと進む。新しい住宅がだいぶ建っていて、一見普通の暮らしが営まれているように見えるが、道を隔てた先にはでこぼこの更地が広がっている現実は普通であるはずがない。

女川町では、丘の上にある女川町地域医療センター（旧女川町立病院、津波はこの病院の入り口まで押し寄せた）の駐車場からかつての街や港をながめた。何もないところに津波で倒された3階建ての建物だけが当時のままの姿で無残に残されている。

海岸線に沿って北上する道の右側はすぐに海である。見え隠れする小さな半島や穏やかな海の様子に、一瞬被災地ということを忘れさせられる。しかし、すべてが押し流され数軒の家の跡以外何もない小さな入り江に、現実をつけられる。この小さな入り江に人々の暮らしが戻ることがあるのだろうか。

雄勝を通るころは、もう暗くなっていたが、大勢の子どもたちが亡くなった大川小学校へも案内してもらった。たくさんの花や千羽鶴が飾られた慰靈碑に、バスの中から手を合わせることしかできなかつたが、逃げればよかったという小学校の裏山が黒く迫っていた。そして、そのそばをとうとうと流れる北上川にかかる新北上大橋を渡り、かさ上げ工事のベルトコンベアの照明だけが明るい南三陸を通り、気仙沼へと向かった。

■「Tree Seed」と交流■

予定よりだいぶ遅く事務所に着いた私たちを代表の小野寺さん、吉田さんが笑顔で出迎えてくれた。地元の新鮮なお刺身などが用意され、とても心のこもったおもてなしを受けた。きれいになった事務所は、今はボランティアの人たちに休憩所として提供され、交流会などにも使われているという。震災アーカイブ事業に協力したり、被災地ガイド、物販による仮設住宅でのサポートや、イベントへの協力など、



TreeSeedの事務所で説明を聞く

かさ上げのため山を崩した土を運ぶベルトコンベアはどこまでも続く

地域のニーズにそって多方面に活動していることがよくわかった。今後は、インターネット放送を計画していく、気仙沼を心配していて下さる全国の方々に、リアルタイムの映像や言葉を届け、また逆に被災地の人に全国の応援の声などを届けていきたいと、計画を語ってくれた。現在の仲間は4人だというが、彼らの活動がうまく続くよう願わざにはいられない。

宿泊する陸前高田の山の中にある温泉「玉の湯」まで事務所から車で30~40分。途中、かさ上げ工事現場の明るくライトアップされたベルトコンベアの規模の大きさに驚き、真っ暗な山の中ではたぬきや鹿の出現に驚きながら、私たちは無事に宿に到着した。

二日目は、前日と打って変わっての明るい晴天。朝起きると、まず宿が素晴らしい紅葉の山中であることにみんな気づく。峠の展望台から陸前高田の湾を一望すると、海岸線は事もなげに美しい。古くから金や水晶の産地という山を下り切り、その湾に降り立つ。かつての松原一帯はかさ上げ工事の真最中で、周囲の山を削っては、そぞり立つベルトコンベヤーで土を運び、あちこちに赤茶色の台地を作っている。どのような新しい街をめざしているのか想像がつかない。地形を造り直すような大工事の現場に“奇跡の一本松”が心細げに立っていた。



仮設住宅で背中ほぐしをする参加者

■仮設住宅の人たちと交流■

気仙沼の小原木中学校庭に建つ仮設住宅を訪れ、集会室でお茶を飲みながら話をする。ご近所仲間とそっくりここに移つて来て暮らしているという人たち。穏やかな表情の胸の内は計り知れないが、「ここにコロッケを売りに来ているお兄さん(Tree Seedのメンバー)との縁で私たちも來たのですよ」と告げると、パッと笑顔が生き生きしたものになった。“つながり合っている”という実感は、ささやかだが人を安らかにする。集会所の一室で袋物やラップスカートを縫っている人たちとの交流、またお年寄りに「背中ほぐし」の施術をするツアー参加者もいて、喜ばれていた。

そして仮設商店街の食堂でお昼をいただき、一路横浜へ。東北はバスで行くと遠いけど、また行きたいし、行かなければ、と思う。（会報作成チーム 沼田 由美子・斎藤 和子）

ツアーパートナーの感想

■華々しいことでなくてもいい、時間がかかるてもいいので、少しお話の小さい人たち、困っている人たちにより添う「復興支援」が望まれます。そのためにも息の長い支援が重要だと感じました。また機会があれば参加したいです。

(Jさん)

■復興は進んでいるように見えるが、計画段階で、果たして地域の人たちの参加をどれだけ得ているのか、気になりました。若者たちが地元で仕事を得られるような地域づくりができるといいのですが。

(Mさん)

■堀さんや土木の専門家からのていねいな説明により見学内容が充実した。3年半も経過し離れて住んでいると、つい新しいニュースに隠れてしまい忘れがちになりますが、それではいけないと認識を新たにしました。

(Yさん)

■かさあげ工事は実際に見るまで、話を聞くだけではわからなかった。人のいない未来都市のような工事現場。山を削って自然を壊して、それでよいのだろうか。できた場所

に誰が住むのか。仮設のお年寄りの住む場所とは思えない。未来が不安になりました。

(Tさん)

■土木工事の見本市のようだった。若い技術者は復興に率先して従事し技術を磨き、今後の災害時の即戦力になって欲しいと思う。一方で、どのように膨大な事業費を投入し大規模な街づくりをしたのはよいが、人口の減っていく地方の経済で、将来果たしてそれらを維持管理できるのか、心配にもなった。

(Iさん)



紅葉の山の下は、かさ上げ真っ最中の陸前高田市

優秀賞



金剛の教師になった奨学生
An ex-scholarship student from an ethnic minority group became a schoolteacher in her own village.
【ネパール連邦民主共和国】(2011年9月)
留学金を得て村の高校で学んだ少数民族の女性が
その後も勉強を続け、高元の小学校の先生になりました。
An ex-scholarship student from an ethnic minority group
became a schoolteacher in her own village.

「ネパールの奨学生」の写真が優秀賞に！

グローバルフェスタJAPAN2014が今年も10月4~5日、日比谷公園で催されました。

国際協力活動を行う政府機関、NGO、企業などが一堂に会する、国内最大の国際協力イベントで、地球の木は毎年大人気のチヂミ販売とクラフト販売で参加しました。今年は国際協力60周年記念という事もあり特に盛大に行われ、地球の木にとっても嬉しいことがありました。

世界各地で女性支援に係る国際協力活動の現場の様子や世界の女性の生活・活躍の様子が分かる写真を「女性が輝く世界」をテーマに幅広く募集されました。地球の木でも応募したところ、丸谷理事長がネパール



写真展の表彰式

ル調査で訪れたマンガルタール村で撮った写真「念願の教師になった奨学生」がみごと、NGO部門の優秀賞に選ばれ、フェスタのオープニングセレモニーで表彰されました。

この写真は引き続き大阪でも展示される予定です。

(会報作成チーム 浜辺 美英子)

活動日誌（9月～11月抜粋）

- 9月 8日 かにゃお杯出展（川崎競馬場）
9・10日 つつじが丘デポー展示会
12・13日 デポーせたがや展示会
13~23日 ネパール現地調査
26日 ボランティアDAY
28日 平塚センターまつり出展（平塚市民活動センター）
10月1日 元町トニー出店（10/1~12/30）
4・5日 グローバルフェスタJAPAN2014出展（日比谷公園）
7日 ラオス現地スタッフ帰国報告会
9・10日 高津デポー展示会
12日 かながわ「共に生きる」学習会（横浜中央YMCA）
13日 鎌倉国際交流フェスティバル出展（高徳院）
16・17日 みたけ台デポー展示会
18・19日 よこはま国際フェスタ2014（象の鼻パーク）

- 20日 第3回理事会
21日 あーすフェスタ実行委員会
22・23日 気仙沼訪問交流ツアー
24日 ボランティアDAY
25・26日 デポー石神井展示会
28日 いのり題目出展（妙法寺）
30日 中間監査
11月1日 東戸塚デポー展示会
15日 オルタナティブ生活館フェスタ出展（オルタナティブ生活館）
20日 東寺尾デポー展示会
22日 ネパール現地報告会（レストランモンキーテンブル）
24・25日 デポー町田、センター南デポー展示会
29日 第2回東日本大震災・復興支援まつり
(山下公園おまつり広場)

がんばる笑顔を応援しよう！ ～幸せ分かち合い年末募金～

皆さまの日頃のご協力に、心より感謝いたします。

今年もあとわずかになりました。ネパール、カンボジア、ラオス、気仙沼の人たちと、幸せを分かち合えるよう、皆さまからの温かい募金を何とぞよろしくお願い申し上げます。

詳細は同封のちらしをお読みください。



地球の木カレンダー2015

「この星の旅人たち」販売中！



地球の木カレンダー2015は、鎌倉在住のカメラマン竹沢うるさんが撮った「この星の旅人たち」です。明るい色調の写真が14枚。2015年が、この写真のように元気で明るくありますように。

購入ご希望の方は、ご住所、お名前、連絡先、購入部数をご記入の上地球の木事務局までお申込みください。ホームページからも受け付けております。

お友達やお世話になった方へのプレゼントにもいかがでしょうか。メッセージカードを付けて地球の木よりお届けいたします。

ラオスのお話会「サロン・カフェLao」

日 時：12月6日（土）13：30～16：30

場 所：地球の木事務所

募集人数：10名（先着順、要申込）

森林の専門家である圓谷浩之氏は自称ラオキチ。土曜日の昼下がり、のんびりゆったり、時にははずっこけたラオスの暮らしについて聞いてみませんか。

第14回 南北コリアと日本のともだち展

絵画展「私のまちにおいでよ」

日 時：12月18日（木）～21日（日）

12：30～17：30

土日10：00～17：30

場 所：こどもの城1Fギャラリー

（渋谷駅徒歩10分、表参道駅B2出口徒歩8分）

ともだち展トーク

「私の出会った平壌の大学生」

日 時：12月20日（土）14：30～16：30

場 所：こどもの城9F研修室

ギャラリーイベント（1Fギャラリーにて）

・こどもワークショップ（小中学生対象の交流のイベント）

日 時：12月20日（土）10：30～12：30

場 所：こどもの城1Fギャラリー

・ギャラリートーク（絵を囲んでのおはなし会）

日 時：12月21日（日）

11：00～12：00/14：00～15：00



寄付領収書について

地球の木は認定NPO法人です。皆さまからいただいた地球の木へのご寄付は、確定申告によって、所得税、法人税等の寄付金控除を受けることができます。申告には地球の木が発行する領収書が必要となります。2014年にいただいた、ご寄付につきましては、2015年1月末までに領収書をお送りいたします。

また、地球の木ではサポート会員の会費も寄付金控除の対象となります。サポート会員の会費はご連絡をいただいた方のみ領収書をお送りしておりますので、申告のため、領収書の必要な方は事務局までご連絡ください（既にご連絡いただいている方は連絡不要です）。

よこはま国際フォーラム2015

開催日時：2015年2月7日（土）11：00～19：00

2月8日（日）11：00～17：00

会 場：JICA横浜（横浜市中区新港2-3-1）

（桜木町駅徒歩10分ワールドポーターズ裏）

■地球の木はワークショップ「未来の食卓」のをおこないます。日本の食の現状と未来を考えましょう。

日 時：2月8日（日）11：00～12：50

会 場：JICA横浜セミナールーム6

地球の木講座2015

「アーサー・ビナードが語る」第2弾

アメリカ生まれの詩人が日本の今を鋭く語ります。

日 時：2015年2月15日（日）14：30～17：00

場 所：開港記念会館2階6号室

※詳細は同封のちらしをご覧ください。

外国人学校の子どもたちの絵画展2014

横浜市内にある外国人学校の子どもたちが、本や図書館をテーマに描いた楽しい絵を展示します。

期 間：12月1日（月）～12月27日（土）

※12月15日（月）は施設点検のため休館

時 間：火曜～金曜 9:30～20:30

土曜、日曜、月曜、祝日 9:30～17:00

場 所：横浜市中央図書館1F展示コーナー

主 催：外国人学校の子どもたちの絵画展 実行委員会

地球の木クラフト販売

ご来店をお待ちしています。地球の木カレンダー2015も販売いたします。

■緑園デポー展示会 12月4日（木）～5日（金）

横浜市泉区緑園7-1-13

（相鉄いずみの線南万騎が原駅徒歩7分）

■元町トミーフェアトレードショップ

期間限定でフェアトレードショップをオープンしています。

日 時：10月1日（水）～12月30日（火）

11：00～18：00

会 場：元町トミー（横浜市中区元町4-176）

JR根岸線「石川町駅南口（元町口）」徒歩5分

みなとみらい線「元町・中華街駅」5番出口徒歩6分

会員・ボランティアを募集しています。